

平成27年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園幼稚園】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期的目標

- 1 アシステンツァを実践する
 - ① キリスト教精神に基づく教育活動の実践
 - ② 教職員対象のカトリック教育
 - ③ 祈りの習慣付け
 - ④ 保護者の啓発
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - ① 危機管理及び防災備蓄体制の確立
 - ② 実地訓練の充実
 - ③ 安全管理体制の公開及び発信
- 3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する
 - ① 社会人教育の実践
 - ② 社会貢献活動の展開
 - ③ 教育活動従事者としての意識と技術の向上
- 4 幼稚園ブランディングプロジェクトを推進する
 - ① 学園ビジョン（10年後の姿）の明示と徹底
 - ② 幼稚園ブランディングプロジェクトの推進
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - ① 教職員間のコミュニケーション円滑化
 - ② 園児・児童・生徒、保護者への挨拶の励行
 - ③ お客様、業者への挨拶の励行

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

7. 自己評価アンケート結果と分析	4. 学校関係者評価委員会からの意見
<評価が相対的に高かった項目> 16項目のうち、11項目で「A+B」評価率が100%を達成 <評価が相対的に低かった項目> ○子どもの感性が磨かれている （上記のほか、次頁「自己評価」欄にて項目別分析を実施）	学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。平成27年度学校評価に関する検討は平成28年8月30日（火）に行われた。 <意見> ○アンケート全般について ・A～Dの4段階評価によるアンケートでD評価が1件もないというのは素晴らしい。これほどまでに高い評価が得られているのは園の活動が信頼されているということであろう。 ○安全管理について ・帰りの時間帯にはどうしても管理が手薄になることが指摘されており、その点に留意しておく必要がある。 ○教育内容について ・感性を磨くという点についてはなかなか結果が見えにくいこともあるため、カリキュラムや実施内容を伝える努力も必要であろう。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 ア ッ シ ス テ ン ツ ア を 実 践 す る	(1)共に育つ（愛されているわたしたち、大切なひとりひとり）	ア)アッシステンツアを実践する。 イ)神を知り、祈りと感謝の心を育てる。 ウ)共に生きることの大切さを知り、共に生活するために必要な習慣や態度を身につけさせる。 エ)友だちや周りの人の違いや他者の良さを受け入れようとする力を育む。	学校評価アンケート結果を評価指標とし、それを踏まえて自己評価を実施することとする。 園の活動方針に関するA・B評価が80%以上。 感謝の心に関するA・B評価が80%以上。 ルールを守ることに關するA・B評価が80%以上。 他者理解に関するA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 100%。子どもと共に過ごし活動し、寄り添いながら、必要な援助をしてきた。(○) イ)A・B評価 100%。祈りの時間や宗教教育を通して、神様を身近に感じ感謝の気持ちや友達を思いやる気持ちが育ってきた。(○) ウ)A・B評価 100%。活動の中で教え合い、譲り合う姿が見られきた。(○) エ)A・B評価 100%。自由活動や預かり保育の中で学年をこえて関わる姿が見られ、優しい気持ち、思いやる気持ちが培われているのではないと思う。(○)
2 園 児 ・ 児 童 ・ 生 徒 の 安 全 」 管 理 を 徹 底 す	(2)自立と自律（自分で、自分から）	ア)自分のことは自分でできるよう支援する。 イ)危険な場所、危険な遊び方、災害時の行動の仕方がわかり、安全に気をつけて遊ぶ力を培う。 ウ)遊びの中で、楽しみ、試し、工夫し、見通しをもって遊びを発展させられるよう働きかける。	自律的行動に関するA・B評価が80%以上。 安全管理に関するA・B評価が80%以上。 教員による声掛けに関するA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 94.4%。生活に必要な活動（基本的生活習慣）が身につけられるように必要な声かけや指導を、クラスを超えて行うことによって自分でやろうとする姿が育ってきた。(○) イ)A・B評価 88.9%。安全な遊び方や場所についての心構えが身につけられるように、必要な声かけや指導を行うことによって、気をつけて遊ぶ力が備わってきている。(○) ウ)A・B評価 100%。子ども達が見通しをもって保育活動に取り組めるように、声掛けを行ってきたことで、遊びや活動に意欲的に挑戦する姿が見られるようになってきている。(○)
3 『 良 心 的 な 人 間 、 よ き 社 会 人 』 を 育 成 す る	(3)ひびき合う心、豊かな感性	ア)困っている人に気づき、思いやる言葉かけができる。 イ)自然の大切さを考え、物を大切にし、環境を守ろうとする。 ウ)保育者と共に季節の移ろいを感じ取ったり、小さなことに感動しながら感性をみがく。	教員の配慮に関するA・B評価が80%以上。 自然や物に対する有難みに関するA・B評価が80%以上。 感性に関するA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 100%。友だちとの関わりの中で、相手の思いや必要に気づき、自分の言葉で気持ちを表すことが出来るようになってきている。(○) イ)A・B評価 100%。自然の営みの中で人間や植物が生きていることに気づかせながら、物や環境に関心を持ち、大切にすることを育ってきている。(○) ウ)A・B評価 77.8%。自然環境の中で野菜や植物、花や小動物を育て、その成長や変化に気づき、その中で自然の不思議さを感じ、感動する喜びを味わうことを促したがより一層の成果を求めたい。(△)

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 幼稚園 ブラン ディ ング プロ ジェ クト を推 進す る	(4)表現活動に力点を置く	ア)子どもたちの表現力を育てるために種々の環境設定を行い自己表現できる場を与えることによって、感性・想像力・創造性・技能等基礎となる力を育てる。 イ)英語をはじめ、種々の活動に意欲的に取り組む。	表現力に関するA・B評価が80%以上。 取組への意欲に関するA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 100%。ことば、音楽と3年間の積み重ねの重要性を今年度子ども達の姿を見て実感することが出来た。子どもの成長、発達段階に応じた積み重ねを日々続けていけるようにしたい。(○) イ)A・B評価 100%。英語・音楽・体育と様々な活動に、意欲的、積極的に取り組む姿が見られた。(○)
	(5)遊びの環境づくり	ウ)素材・教材研究、細やかな配慮、子どもの遊びに寄り添う等の実践を通して、子どもの遊びを充実させ、遊びの中でこそ体験できる自由な発想や表現力、想像力を培い、子どもたちの自発的な遊びを促進する。	専門性に関するA・B評価が80%以上。	ウ)A・B評価 94.4%。素材・教材研究をしながら、活動におろしていたが、まだまだ研究していく必要があると感じる。自由活動の中に、廃材や、色画用紙などを準備していたこともあり、遊びに広がりを感じた。(○)
	(6)応用力を培う	エ)基礎・基本を大切にし、それを子どもたちに分かりやすく、順序を追って、しっかりと伝え、応用力を培う。	子どもの自主性に関するA・B評価が80%以上。	エ)A・B評価 88.9%。保育や遊びの中で基礎、基本を身につけられるように、子どもに繰り返し伝え、その積み重ねの中で見通しをもって取り組む姿勢が育ってきている。(○)
5 自然に 学園に する に 交 わ せ る	(7)基本的な生活習慣の確立	ア)教職員が率先してあいさつを行う。 イ)子どもたちがあいさつ、整理整頓、身の回りの始末等ができるようになる。	挨拶に関するA・B評価が80%以上。 基本的な生活習慣に関するA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 100%。身近な人の中で日常生活お挨拶を交わしながら、心地よさや大切さを知り、進んで挨拶する習慣がついてきている(○) イ)A・B評価 100%。自分から挨拶をする子どもが多く見られた、身の回りの始末も自分で気付いて行なう姿が見られた。(○)